

# 高齢化社会における都市施設の利用形態について

秋田大学 正 員 清水浩志郎  
秋田大学 正 員 木村 一裕  
秋田大学 学生員 ○古山 広功  
秋田県老人クラブ連合会 斉藤 秀樹

## 1. はじめに

高齢化社会においては、高齢者が社会の一員として積極的に社会参加できるような環境を整備することが必要である。そのためには高齢者の意向から社会参加活動の利用対象となる都市施設の環境を整備しなければならない。交通計画の観点から高齢者の都市施設利用を考察する場合、各居住地域から社会参加対象施設へのアクセシビリティをどう高めるかが問題となる。アクセシビリティは交通システムのサービス水準と、対象とする施設の配置によって変わってくることから高齢者のアクセシビリティ向上には、この点について考慮した上で交通対策を講じなければならない。そこで本研究では高齢者のニーズの高い都市施設を対象として、施設の利用形態から高齢者のアクセシビリティについて考察した。

## 2. 高齢者のニーズと都市施設の設置状況

昭和62年2月に行なわれた「高齢者の社会参加に関する調査」<sup>1)</sup>によれば、高齢者の外出では集会や団体活動への外出が多く、町内会などの地域の会や社会奉仕団体、老人クラブへの参加が多くみられ、郷土史や民謡等の研究へも高い意欲を見せている。

表-1 高齢者が利用したい施設

| 施設名                            | 全体            | 都市部           | 郡部            | 施設名        | 全体             | 都市部           | 郡部            |
|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------------|---------------|---------------|
| 公園                             | 527<br>(10.2) | 251<br>(10.7) | 276<br>(9.8)  | 資料館        | 220<br>(4.3)   | 102<br>(4.4)  | 118<br>(4.2)  |
| 運動場                            | 358<br>(6.9)  | 132<br>(5.6)  | 226<br>(8.0)  | 体育館        | 497<br>(9.6)   | 212<br>(9.1)  | 285<br>(10.1) |
| 公民館                            | 868<br>(16.8) | 445<br>(19.0) | 423<br>(15.0) | 老人<br>センター | 882<br>(17.1)  | 359<br>(15.3) | 523<br>(18.5) |
| 図書館                            | 350<br>(6.8)  | 164<br>(7.0)  | 186<br>(6.6)  | 老人<br>の 家  | 1170<br>(22.7) | 518<br>(22.1) | 652<br>(23.0) |
| 美術館                            | 156<br>(3.0)  | 91<br>(3.9)   | 65<br>(2.3)   | その他        | 137<br>(2.6)   | 68<br>(2.9)   | 69<br>(2.5)   |
| ◎ 複数回答を許しているため<br>サンプル数とは一致しない |               |               |               | 合 計        | 5165<br>(100)  | 2342<br>(100) | 2823<br>(100) |

そして高齢者が今後利用したいと考えている施設（表-1）としては、「老人いこいの家」、「老人福祉センター」であり、高齢者用施設に対して魅力を

感じている。また、「公民館」なども比較的高く、身近にある施設を希望していることもわかる。このように活動的な高齢者がみられることから、今後都市施設利用は増加する傾向にあるものと思われる。

以上のような状況に対して、都市施設の設置状況（表-2）をみると、秋田県においては、高齢者用施設である老人いこいの家は地域によらず比較的普及している。これに対し、老人福祉センターの普及率は低く、村や町での普及率が特に低いというような状況である。公民館は69市町村すべてに設けられ、設置率100%である。また、教育文化施設である図書館は9市9町1村に23館であり、設置率は28%にすぎず、博物館も1館と非常に少ない。しかし、高齢者の希望する施設については設置率が比較的高いことから、高齢者をこれらの施設へどのようにしてアクセスさせるかが主要な問題として残る。そこで次節では、現在の施設利用の実態について分析し、現在の問題点から今後の課題について考察した。

表-2 都市施設の設置状況

| 施設名          | 施設数    | 設置市町村数および設置率 |     |     |     |
|--------------|--------|--------------|-----|-----|-----|
|              |        | 市            | 町   | 村   | 計   |
| 公民館          | 本館 196 | 9            | 49  | 11  | 69  |
|              | 分館 396 | 100          | 100 | 100 | 100 |
| 図書館          | 23     | 5            | 31  | 5   | 41  |
|              |        | 56           | 63  | 45  | 59  |
| 博物館          | 1      | 9            | 9   | 1   | 19  |
|              |        | 100          | 18  | 9   | 28  |
| 体育館          | 81     | 11           | 0   | 0   | 1   |
|              |        | 9            | 38  | 6   | 53  |
| 運動場          | 184    | 100          | 77  | 55  | 77  |
|              |        | 7            | 39  | 6   | 52  |
| 老人福祉<br>センター | 14     | 78           | 79  | 55  | 75  |
|              |        | 4            | 10  | 0   | 14  |
| 老人いこ<br>いの家  | 79     | 44           | 20  | 0   | 20  |
|              |        | 7            | 37  | 8   | 52  |
|              |        | 78           | 76  | 73  | 75  |

下段：パーセント

## 3. 高齢者用施設の利用形態

高齢者の都市施設利用状況の実態を明らかにするために「高齢者の社会参加に関する調査」<sup>1)</sup>の中の都市施設利用に関するデータ2899票を用いて分析した。

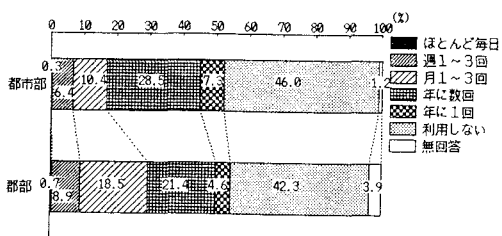


図-1 地域別にみた高齢者用施設の利用状況

都市部と郡部では都市施設の配置や交通サービスの水準が明かに違うことから、地域別にみた分析を行なった。また、本論文では、高齢者の利用のニーズの高い高齢者用施設を対象とした。高齢者用施設の利用状況(図-1)をみると都市部、郡部ともほぼ50%の人がなんらかの形で利用していることがわかるが、その内訳を見ると郡部の高齢者の利用頻度が高いことを示している。そこでこのような違いが起る理由を探るために高齢者が施設へどのようなアクセスを行なっているかを交通手段と所要時間から分析した。高齢者用施設へのアクセス状況(図-2)をみると明らかな相違がみられ、都市部ではバス利用者が非常に多く、所要時間では26分以上と施設へのアクセスに時間がかかることを示している。これに対し郡部では自転車や徒歩が多く、所要時間は10分以内が比較的多く、アクセスしやすい状況にあると思われる。

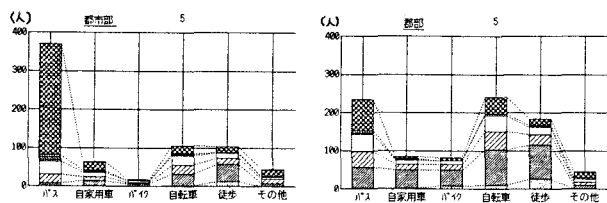


図-2 地域別にみた高齢者用施設へのアクセス状況

そこで、具体的に高齢者の施設利用しやすい所要時間を把握するために、高齢者用施設まで「近い」と意識される時間について分析した。図-3から、所要時間が10分以内であるときに「近い」と意識される人の割合が70%~80%と高くなっている。このことから、都市部の高齢者は遠くはなれた施設まで利

用のためにわざわざ出かけていることになり、必然的に施設利用の頻度が少なくなるものと思われる。つまり、都市部には高齢者用施設があってもアクセスに時間がかかるため、高齢者の利用が妨げられているといえる。以上の分析結果から今後の課題として、都市部ではアクセス時間を短縮するような交通システムの整備などを、また、郡部でのアクセス交通手段が自転車やバイク利用が多いことから、冬期など、これらの交通手段の利用が困難な場合の交通対策が必要であろう。

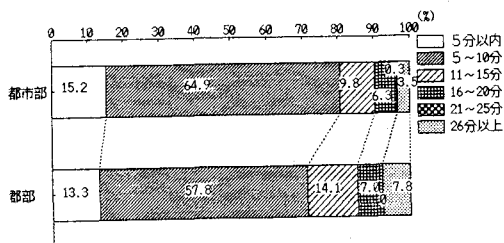


図-3 「近い」と意識されるアクセスの所要時間

#### 4. むすび

本研究では高齢者の利用ニーズからアクセシビリティという観点で高齢者用施設について分析した。その結果、所要時間の点で都市部の高齢者用施設は

アクセスしにくい状況であること、また高齢者の施設利用のアクセス時間としては10分程度であることが望ましいことがわかった。

今後は他の施設についても調査、分析し、所要時間だけではなく、交通費などについても同時に考察する必要があると思われる。

最後に、多大なご協力をいただいた秋田県老人クラブ連合会に、この場

をかりて深く感謝する次第である。

#### 【参考文献】

##### 1) 高齢者の社会参加に関する調査

昭和62年3月 秋田県老人クラブ連合会